

東葛薬学研究会 3月16日 青木先生のご講演での質問の回答

・プレベナー接種後のニューモバックス接種までの間隔は？

「65歳以上の成人に対する肺炎球菌ワクチン接種に関する考え方」によると、1年から4年あけて接種することが推奨されていました。

・麻疹は死亡率が低いのになぜ騒ぐ？

騒いでいるのは、麻疹恐しでワクチン需要が高まり、品薄になっていることによるようです。

では、それほど急いでワクチンを打つ必要があるかという点、死ぬのが怖いのではなく、学校や職場を休むことが問題のようです。しかも大勢が。すなわち、インフルエンザと同じです。実際、麻疹は五類感染症です。

WHOが、日本を含む西太平洋地域において2012年までに麻疹を排除するという目標を掲げ、日本においても2007年に「麻疹に関する特定感染症予防指針」が施行され頑張っていたのにまた流行してきたのでここでしっかり予防を、となったようです。

参考) 国立感染症研究所 麻疹とは

・子宮頸癌ワクチンはどれがおすすめ？

理論的に、9価のシルガード9は、4価のガーダシルや、2価のサーバリックスでカバーできないウイルス型にも効果が期待できます。

一方、肺炎球菌ワクチンのように、価数が少ないワクチンのほうがブースター効果が高いというようなことはありません。

審査報告書によれば、9価のシルガード9は、4価のガーダシルに置き換わる位置付けとされているため、ガーダシルよりは、シルガード9だと思われます。

また、日本産婦人科学会の「子宮頸がん HPV ワクチンに関する正しい理解のために」によると、「潜在的な効果は9価 HPV ワクチン接種で有意に増加する」「9価ワクチンの定期接種と幅広い年代へのキャッチアップ無料接種の普及を推進する」とのことであり、また、「子宮頸がん予防に関する日本産科婦人科学会の考え方について」には、「子宮頸がん予防を効率的に行うためには、将来的な9価 HPV ワクチンの男女区別のない定期接種を国に要望していく」とあるので、やはり第1選択はシルガード9でよいかと思います。